

安井株式会社

医療機器部品から医療機器組立て、パッケージングまでトータルで受託製造を承ります

技術・製品紹介

1930年に印刷事業で創業して以来、発泡スチロール事業、射出成形事業、医療機器事業へと、日本経済の発展や社会環境の変化に適応しながら事業を展開してきました。お客様に育てていただいた技術とノウハウで社会に貢献します。

照明付き医療用鉤「コウプライト」

先端鉤部には強靱で視認性に優れ、絶縁性の透明プラスチックを採用。手術に適した形状の先端鉤部を素早く取り替えることが可能です。また、軽量でコードレスのLED照明器は、術者のストレスを軽減し、術野を明るく確保します。



医療機器 OEM

さまざまなニーズにお応えします。(OEM 承ります。) 医療機器部品から医療機器組立て及びパッケージングまでのトータル受託製造を承ります。



射出部品製造

私たちに求められているもの、それは高品質で安心、安全な製品の提供です。

『品質に妥協なし、能力は無限である』をモットーに、昭和52年より医療機器部品である人工透析容器の生産からスタートいたしました。培った技術とノウハウで品質に妥協せず、平成24年に医療機器製造業許可、続く平成25年にはISO13485も取得し、医療機器の組立てを本格的にスタートいたしました。



会社概要

所在地 〒889-0697 宮崎県東臼杵郡門川町大字加草 2725 番地
電話番号 (0982) 63-7111
資本金 95,000,000 円
設立 1930 年 5 月
代表者 代表取締役社長 堀田 道臣
事業内容

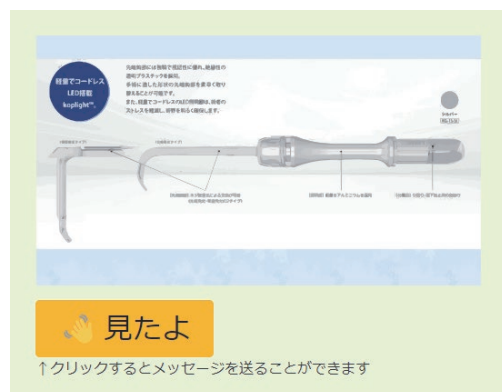
1. 紙、紙加工品及び印刷物の製造並びに売買
2. 包装材料、梱包材料の製造並びに売買
3. 合成樹脂の成形・加工並びに売買
4. 電器・電子機器及び部品の製造加工並びに売買
5. 医療機器の製造販売等に関する業務
6. 高齢者福祉事業に関連する介護用品の売買
7. 損害保険代理業
8. 広告代理業

9. 生命保険の募集に関する業務
10. 清涼飲料水（ミネラルウォーター）及び食料品等の売買
11. 貿易業務
12. 養殖、船舶資材の設置工事並びに売買
13. 水産物の養殖並びに加工販売
14. 釣り餌、釣り具の製造並びに売買
15. 以上各号に関連する業務

資格・特許等 医療機器製造業許可、第2種医療機器製造販売業許可
ホームページ ISO9001、ISO13485
<https://www.yasui-kk.co.jp/>

カンファレンスパーク

メッセージは、カンファレンスパークで受け付けています
<https://conference-park.jp/base/221>



医療分野で培う技術と環境に優しいノウハウで地域から世界へ

安井株式会社は、1930年に印刷事業で創業し、発泡スチロール分野、射出成形分野、メディカル（医療機器）分野へと事業領域を広げてきた。これらの事業間の相乗効果を図るための商事事業を医療、食品、工業分野で展開する。近年、国や県などの補助事業で採択され、大学や研究機関、医療機関等との研究や開発を通じて、産学官連携による新製品を次々と生み出している。同社が辿った医療機器産業への軌跡を、代表取締役社長の堀田道臣さんに伺った。



代表取締役社長の堀田道臣さん

医療機器の部材供給から受託製造、自社ブランドへの道

安井が医療機器産業に参入する礎となったのは、射出成形事業を開始した1977年のこと。部品の製造を起点に技術力を高めることに邁進し、医療機器分野に本格参入をすべく2012年に医療機器製造業許可を取得した。顧客からの注文に応えるために技術の研鑽を重ね、品質向上に努めた。「医療分野で事業を継続・拡大をするのであれば単なる部品づくりではいけない。将来性を見極めて次のステップを踏む必要がある」という意識を常に持ち続け、情報収集にも力を注ぐ。参入当時、同社と競合しうる医療部品の受託製造をする企業は、周囲にさほど多くなかったという時代背景も相まって、医療機器産業に踏み込むことができたという。

「受託製品というのは、基本的には最終製品をつくるのと同じようなもの。品質を含めて、我々は、どこまで責任を果たせるだろうか」と、どんな技術的な難関にも実直に対峙してきた。受託製造から自社ブランド製品を開発する医療機器製造販売業者へと医療機器事業そのものの幅を広げ

てこれたのも、顧客が求めることを徹底的に製品構想に落とし込み、設計から最終的な形に仕上げる同社の「ものづくり力」が、新しい開発テーマを呼び込む仕組みになっているからだ。例えば、これまで同社が医師と共同開発した医療機器に「koplight」（コウブライト）という外科的手術で開創した患者の体内を明るく照らし、医師の視認性を高めて作業をしやすくする製品がある。これは、切開した部位を固定する金属製の「鉤」という医療機器の課題を解決する製品となる。従来品では、術野が金属で隠れてしまい、電気メスを使う場合などでは通電すれば患者の臓器が火傷する恐れもあった。X線で透視しながらおこなう手術では鉤が写り込んでしまう。術野が狭かったり深かったりすると、光が届かず視野が確保できないという課題があった。これを絶縁性の透明プラスチックに置き換え、視認性の向上と軽量化を実現した。鉤の根元にコードレス照明器を接続すると、術野の部位を抑える鉤の先端部が明るく光るしくみで、術野の見やすさを向上させようというのが「koplight」だ。

医療現場の困りごとに対し、解決につながる製品コンセプトの設計から協業先の探索、法規制対応、事業化、マーケティング、海外展開など、入り口から出口まで自社で戦略を立てる体制が整っていることを物語る製品であり、国内から海外へと市場を広げている。

「人の命に関わる医療、そういう事業の重要性を考えると、今後も伸ばしていかなければならない。競争にまみれるものではなく、安定した生産と供給を継続することで、人命と社会の役に立ちたい」という思いで、医療分野での挑戦を続ける。

躍進する一方で、新たな挑戦につきまとう障壁に悩まされることも多い。その壁の一つひとつを、入念な情報収集とあきらめない姿勢こそが、安井が育んだ組織力と言える。

社会とつながるものづくり人材を育てる

安井では、地元の学生に対して職場や工場見学、2日間のインターン実習を実施している。また、UターンやIターンの採用にも積極的で、社会とつながるものづくりの面白さを知ってもらうための工夫にも力を入れる。「品質を守りながら、オペレーションを省力化、自動化する時代のものづくりの現場で、興味と好奇心を持って取り組んで欲しい」と堀田社長は話す。